

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 復興支援-02

学校名・団体名	上川管内道德教育実践研究会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	東日本大震災から学ぶ道德教育の実践 ～命を見つめて～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>①東日本大震災を題材とした道德教材および資料の開発 児童の発達段階に応じて系統的に作成した資料を用いた道德の授業を行い、実践資料を蓄積する。特に被災地の「今」を考えることを通し、「思いやり」を学ばせるための教材を新たに作成する。また、道德の授業で学んだことを応用し、「防災」や「環境」、「福祉」「ボランティア」など、様々な活動へと繋げることができるよう、多様な場面で活用できる資料の作成を進める。</p> <p>②教材および資料の周知を目的とした研究会の開催 東日本大震災を風化させないという意識をひろめ、開発した教材および資料を配付解説し実践を募ることを目的とした研究会を開催し、研究成果を提供する。</p>	

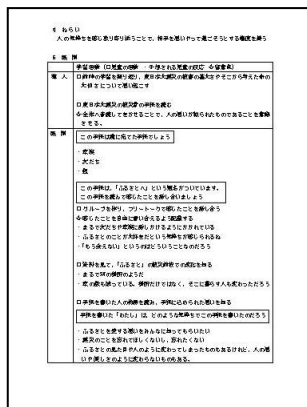
・主な活動内容

①教材作成

6月、10月、12月、1月の4回の編集会議を実施し、教材や資料および指導案、ワークシートを作成した。低学年、中学年、高学年の3ブロックを設置しブロックごとの作成・検討を行ってきた。ブロック別の教材および資料作成の後、代表者会議を経て教材集を完成させた。教材研究に関しては、以下の3点を重点とした。

- (1) 徳目は「思いやり・親切」とし、「相手の立場を思いやる心」と「親切にすることの大切さ」を学ばせる内容とする。
- (2) 児童の関心・意欲を高める教材や資料を集め、1学年から6学年にわたって系統的に作成する。
- (3) 児童の主体的な実践に繋げるため「防災」「環境」「福祉」「ボランティア」の4項目を中心に、多角的に活用できる資料の作成を進める

道徳の副読本や東日本大震災に関わる文献を参考とし、教材および指導案、ワークシートの開発を行った。また、その授業を踏まえた主体的な実践に繋げるための資料および活用例を作成・収集し、それらを冊子・データ集として研究会で配布した。



②授業の実践と資料の蓄積

作成した教材を用いて各学校で授業実践を行い、その資料を蓄積した。授業における児童の反応等を集め、ねらいに至る教材となっているかをブロック会議の中で検討した。また、その上で教材やワークシート、指導案の改善を図った。

③研究会の開催

11月、教材周知および実践発表を目的として研究会を開催した。会場では、昨年度作成した教材集「あしたに生きる～東日本大震災から考えるわたしたちの命～」の完成版の配布、今年度作成している教材集「わたしたちにできること～東日本大震災から考える思いやりの心～」の第一稿を配布、解説を行った。また、会員が実践した授業の様子および成果を発表し、参加者から多くの意見を頂くことができた。その際に頂いた意見を取り入れることで、教材や資料の改善に繋げることができた。

・研究の成果と課題

「生命尊重」を徳目として昨年度作成した教材集を用いて実践を進める中、児童は命の大切さを実感するとともに、「自分達には何ができるのか」を自然と考える姿が見られ胸を打たれる思いだった。これはまさに、「東日本大震災を風化させない」という本研究会の目的に直結する姿であった。そこで本年度は「思いやり・親切」を徳目とした教材を開発すること、児童の主体的な活動を支えるための資料を作成することを中心に据えて活動を行ってきた。

教材開発に関わっては、東日本大震災と結びつけて「思いやり・親切」の徳目に特化した教材集を開発した。昨年度開発した「生命尊重」を徳目とした教材集と合わせて実践することにより、「思いやり」や「親切」といった言葉にとらわれるのではなく、児童一人ひとりが東日本大震災に対してまっすぐに向き合い、自らの心を見つめ相手のことを慮ることができるよう心がけて教材を作成した。会員相互の協力のもと、ブロックごとの検討を重ねることによって、発達段階を踏まえた教材作成を行うことができた。また、今年度は児童の主体的な実践の一つの目的としている。教材での学びを踏まえ、児童一人ひとりが「自分にできること」を考え行動に繋げることができるよう、「防災」「環境」「福祉」「ボランティア」の4項目で道徳に限らず多角的に活用できる資料の作成を進めた。これらの資料は、東日本大震災を題材として道徳の時間に感じ取ったことを、防災教育や環境教育、福祉教育やボランティア活動に繋げることができる資料となっている。これらの資料を用いることによって、東日本大震災を道徳の時間で取り扱うことにとどまるのではなく、そこで感じたことをもとにして自らの生活へと生かしたり、他者のためにできることを考え実践したりする児童の姿を見ることができた。今や小学校では東日本大震災当時のことを記録としてしか知らない世代が大半を占めている。そんな児童にとって、これらの経験は東日本大震災を知り、この未曾有の災害が同じ日本に暮らす人々の身に起こった身近な出来事であると捉え直し、忘れてはいけないという強い思いを植え付けるための種となっただろう。

一方で、当初研究内容として計画をしていた被災地及び支援団体との教育活動ネットワークの構築については課題が見られた。資料提供の依頼や情報提供については、会員個人で必要に応じて協力を依頼する形で被災地に暮らす方々の支援・力添えをいただいた。しかしながら、教育活動ネットワークの構築のためにはより綿密な調整や話し合いを要することが明らかになった。時間はかかるかもしれないが、ネットワーク構築に向けて今後も継続して取り組んでいくこととした。

本年度をもって、26年度から2カ年計画で行ってきた「東日本大震災を風化させない」ことを目的とした道徳教材の開発、実践は一つのまとめを迎えることとなった。「生命尊重」「思いやり・親切」といった二つの徳目を取り扱った児童の発達段階に沿った教材集を作成し、一定の成果を得られた一方、いくつかの課題点を更なる可能性も見えてきている。また、東日本大震災から5年が経とうとしている今、自分達に何ができるのか、何をやる必要があるのかを、わたしたち教育者の立場からも考えていくことが必要となっていくだろう。本研究会では、今後も「東日本大震災を風化させない」ためにできることを考え、取組を続けていきたい。

